

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 26 年 3 月 13 日 (2014.3.13)

【公開番号】特開 2013-233289 (P2013-233289A)  
 【公開日】平成 25 年 11 月 21 日 (2013.11.21)  
 【年通号数】公開・登録公報 2013-063  
 【出願番号】特願 2012-107550 (P2012-107550)  
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 1 月 29 日 (2014.1.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の始動条件の成立により補助遊技を実行し、該補助遊技が特別な結果となる場合に遊技者に特典を付与する特別遊技状態を発生させる遊技制御を行う遊技制御装置を備えた遊技機において、

前記遊技制御装置には、

遊技制御プログラムを記憶する遊技制御プログラム記憶手段と、

前記遊技制御プログラムにより所要の演算処理を行う演算処理手段と、

前記演算処理を行う際にデータが記憶されるレジスタと、

前記演算処理手段によって更新される情報が記憶される更新情報記憶手段と、

を備え、

前記更新情報記憶手段にはスタック領域が設定され、

前記レジスタには、前記スタック領域のアドレスを指定するためのスタックポインタと、  
前記演算処理手段による演算結果を記憶するためのフラグレジスタが含まれるとともに

、  
 前記演算処理手段は、所定の起動信号が発生すると、前記遊技制御プログラムのリセットアドレスに設定された命令を実行し、

前記起動信号が発生した際に、前記演算処理手段が前記遊技制御プログラムのリセットアドレスに設定された命令を実行するよりも前に、前記スタックポインタに固有のアドレス値を設定する固有値設定手段が備えられ、

前記遊技制御プログラムには、

呼出元の処理が記述された呼出元ルーチンと、

前記呼出元ルーチンに記述された呼出の命令が実行された場合に呼び出される処理が記述された第 1 の呼出先ルーチンと、

前記呼出元ルーチンに記述された命令の実行中において、所定の割込信号が発生した場合に呼び出される処理が記述された第 2 の呼出先ルーチンと、が含まれ、

前記演算処理手段は、

前記第 1 の呼出先ルーチンが呼び出された場合は、前記呼出元ルーチンに含まれる戻りアドレスの値を前記スタック領域に格納し、且つ前記フラグレジスタの値を前記スタック領域に格納しない状態で、前記第 1 の呼出先ルーチンの処理の実行を開始する一方で、

前記第2の呼出先ルーチンが呼び出された場合は、前記呼出元ルーチンに含まれる戻りアドレスの値と前記フラグレジスタの値の各々を前記スタック領域に格納した状態で、前記第2の呼出先ルーチンの処理の実行を開始することを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

本発明の代表的な一形態では、所定の始動条件の成立により補助遊技を実行し、該補助遊技が特別な結果となる場合に遊技者に特典を付与する特別遊技状態を発生させる遊技制御を行う遊技制御装置を備えた遊技機において、前記遊技制御装置には、遊技制御プログラムを記憶する遊技制御プログラム記憶手段と、前記遊技制御プログラムにより所要の演算処理を行う演算処理手段と、前記演算処理を行う際にデータが記憶されるレジスタと、前記演算処理手段によって更新される情報が記憶される更新情報記憶手段と、を備え、前記更新情報記憶手段にはスタック領域が設定され、前記レジスタには、前記スタック領域のアドレスを指定するためのスタックポインタと、前記演算処理手段による演算結果を記憶するためのフラグレジスタが含まれるとともに、前記演算処理手段は、所定の起動信号が発生すると、前記遊技制御プログラムのリセットアドレスに設定された命令を実行し、前記起動信号が発生した際に、前記演算処理手段が前記遊技制御プログラムのリセットアドレスに設定された命令を実行するよりも前に、前記スタックポインタに固有のアドレス値を設定する固有値設定手段が備えられ、前記遊技制御プログラムには、呼出元の処理が記述された呼出元ルーチンと、前記呼出元ルーチンに記述された呼出の命令が実行された場合に呼び出される処理が記述された第1の呼出先ルーチンと、前記呼出元ルーチンに記述された命令の実行中において、所定の割込信号が発生した場合に呼び出される処理が記述された第2の呼出先ルーチンと、が含まれ、前記演算処理手段は、前記第1の呼出先ルーチンが呼び出された場合は、前記呼出元ルーチンに含まれる戻りアドレスの値を前記スタック領域に格納し、且つ前記フラグレジスタの値を前記スタック領域に格納しない状態で、前記第1の呼出先ルーチンの処理の実行を開始する一方で、前記第2の呼出先ルーチンが呼び出された場合は、前記呼出元ルーチンに含まれる戻りアドレスの値と前記フラグレジスタの値の各々を前記スタック領域に格納した状態で、前記第2の呼出先ルーチンの処理の実行を開始する。